



TITLE:

統計拾穂抄

AUTHOR(S):

財部, 静治

CITATION:

財部, 静治. 統計拾穂抄. 經濟論叢 1925, 20(6): 1086-1094

ISSUE DATE:

1925-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128283>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 六 號 第 二 十 二 卷

大正十四年六月一日發行

論 叢

米價と關稅との關係に就て……………法學博士 河田 嗣郎
勞働者所得に對する特別課稅……………法學博士 神戶 正雄
天保以後の西陣……………經濟學博士 本庄榮治郎

說 苑

運賃延戻制……………法學士 小島昌太郎
獨逸古典學派の勞賃論……………法學士 山口正太郎
マルクスの絶對地代に就て……………經濟學士 八木芳之助
アダム・スミスに於ける勞働價值法則の妥當性に就て……………經濟學士 森 耕二郎

雜 錄

資本主義（經濟組織の下に於ける）商業の一機能に就て……………經濟學士 谷口 吉彦
統計拾穗抄……………法學博士 財部 靜治

法 令

衆議院議員選舉法摘要・貴族院令ノ改正・治安維持法・關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ニ關スル件・船舶無線電話施設法・漁業財團抵當法・倫敦協定ニ依リ實施セラルルコトニ決定シタル專門家計畫（所謂ドーズ案概要）

附 錄

本誌第二十卷總目錄

統計拾穗抄

財部 靜治

一 比例の分け方

統計上の比例をその實質より察するとき、

類別比例及關係比例に二大別し得べしとは、拙著社會統計論綱中に説ける所なり。(再版二五二頁参照)然るに獨逸の統計學界にありては、寧ろ形式的計算式に立脚し、蓋然數理的觀點に基づける、區別を立てんとせる者あり、即ちそは傑出せる統計學者 Lexis が一九〇三年の著書、「人口統計及道德統計學理論文集」に收めし、「統計的比例數の可變性微弱の原因に就いて」Über die Ursachen der geringen Veränderlichkeit statistischer Verhältniszahlenを題せる論文中に唱へたる所にして、その後 A. Kaufmann, Theorie und Methoden der Statistik, 1913, S. 450 ff. によつて最も便利なる分け方とせられし所なり、その區別によるに統計上の比例につき、その形式に鑑み蓋然比例 Wahrscheinlichkeitsverhältnisse 及同列比例 Koordinationsverhältnisse の二大別を設く、前者にありては分子を組成せる諸單位が、間接又は直接に分母内にも亦含まるゝが如き仕方により、眞の分數を示せるものなり、この比例數は更に發生學的及解析的 Genetische und an-

ägyptische 比例に細分せらる、發生學的比例にありては、分子は分母を組成せる全體中に、惹起されたる特殊事例又は事件の數を示すべきものたり、假令ば特定年齡級の死者と、生存者中右年齡級中の最低齡に達し、かくて當該死亡の危険圏内に、踏み入りたる人員總數との比の如きは、かゝる比例なり、解析的比例にありては之に反し、分子を組成せる諸單位は、分母を組成せる諸單位と同種に屬するも、何れかの一特別特徴によりてのみ、之と區別せらるべきものたり、假令ば男子出生數の出生總數に對する比、初婚男女婚姻數の總婚姻數に對する比の如きは、かゝる比例なり、而して蓋然比例の形式を有せざる一切の比例は、同列比例視さるゝを得べし、一般的には全體としても部分的にも、個別に獨特計數として存立すべき、統計的合計間の比例なりとせるが、Kaufmann も亦此意味により、比例分類方を解説したり。されば拙著に於て關係比例の三別として示せるものの中の「ロ」、換言すれば幾多集計にして、その中何れ

の一つを採るも、そは他の集計内に又は之に對して、惹起されたる大量事實を示すとすべき、關係に立てるものを組合せて算定せる比例は、右の發生學的蓋然比例 當るべし、之につきては二大量間の一關係として、引離して算定せるものと、一原總量につき引續き起れる發展の諸結果を、連續的に表示せるものとを分ち得べし、假令ば一年内の總出生數又は總死亡數を、人口の現總數と比較し、刑の言渡しありし總犯罪人數を、人口中刑事能力ある者の現總數と、比較せるものゝ如きは前者たり、同生年の總人員中、各齡級に於て漸次に惹起さるゝ、死者數又は生殘者數の總況を、同生年の原總數と比較せるものは後者なり、次に拙著中類別比例とせるものは、前記の解析的蓋然比例に當るべく、最後に拙著中の「イ」即ち異種類集計相互の比例、並に「ハ」即ち發展の結果と原總量との關係に立たず、寧ろ同種系列の諸項をなすべき、幾多計數を組合せて算定せる比例は、前記の同列比例に當るべし。此最後の比例たる標準として

選びたる年次の、一計數を百又は千と立て、系列に於ける諸項の値を之に照して換算するを以て、同格化比例數とも呼び得べき所なるが、學者中には此比例のみを指すために、Koordinationszahlen といふ名稱を、用ゐんとする者あるは序に注意すべきなり、即ちSigmund Schott, Statistik. 2. Aufl. 1920, SS. 72, 73 の如きは然り。

素より右類別比例及關係比例の分け方につきは、關係比例の概念内に、本來その性質を異にせる二種の比例が、包含せらるゝ點に於て、分類上明快の極致を得たりとは、なし兼ねるが如きものあり、即ち特定事件のために基本たるの、用をなすべき環境内に起りし、同一事件生起の頻繁程度を示すべき比例と、各集計それ自體としては一段落を告げしものとすべき、統計上の諸集計を組合せ、純外面的關係として結ばしめつゝ、算定せる比例とを同種として包括するは、必ずしも適切とし兼ねるが如きは、Kaufmann. a. a. O. SS. 453, 454 の指摘せる通

りたるも、その區別は普通人に了解され易きと共に、實質上の實際相違に基づけりとすべきを以て、之を捨て、他を採るべしとするに及ばざらん。

二 我邦の殺人犯

我邦の殺人犯に關する官廳統計材料は、之を統計年鑑につきて窺ふに、(1)第一審刑法犯有罪被告人罪名別の統計、行刑統計中の(2)新受刑者罪名別の統計、並に(3)在監受刑者罪名別の統計に求め得べし、利用の目的如何によりては、却つて後の二者を以て勝れりとすべきものあり、統計年鑑に抄録せる所によるも、尙新受刑者の飲酒嗜好の有無、資産の關係等に關する統計表、在監人罹病統計等を掲げ、その調査割合に詳細に亘るを以て、之を想はずんば非ず。

されど殺人犯の増減及之を促せる原因を、考察せんとするの目的よりせんか、新受刑者罪名別の統計は姑らくおき、他の二種統計につき考ふるに、在監受刑者罪名別統計は之に適せず、今之を克明に示すため、第四十三回帝國統計年鑑

中より左の數字を拔萃せんと欲す、即ち大正十一年中の事實によると、在監受刑者罪名別千分比上男女別として

	男	女
殺人(嬰兒殺を含む)	七一・〇	二一三・〇
賭博及富籤	二九・五	一一・四

の割合を示すも、更に第一審刑法犯有罪被告人罪名別千分比によると、男女を通算して

	二六・五
殺人(嬰兒殺を含む)	
賭博及富籤	五四七・七

の割合を示す、看る可し罪名如何により、自から刑名及刑期を異にすべき結果として、一般に刑事裁判事件に於ける罪名別の多少順は、在監受刑者統計によらば、大に紊さるべきことを、かくて吾人は先づ刑事裁判統計により本題の研究を、始めんと欲する者なるか、同時に普通の殺人と嬰兒殺とを分ち考察するの便宜上、統計年鑑所載の第一審刑法犯有罪被告人犯罪原因別統計を利用し、別表を作製することゝしたり、(普通殺人と嬰兒殺とは、計數の上よりするも前者は男子に多く、後者は女子に多きこと顯著なるのみならず、社會研究資料

としての價值よりせんか、之を分載する方遙かに勝れりとすべきを以て、製表上の特別理由なき限り、各表を通じて分類表章の主旨を貫かれんことを希望せずんば非ず)而して嬰兒殺に對せしめたるものとしての殺人(別表中便宜上狭義殺人とす)中には、司法省刑事統計年報所載の諸表によれば、(イ)人を殺すの罪、(ロ)人を殺さんとする目的を以て、其の豫備を爲すの罪、(ハ)自己又は配偶者の直系尊屬を殺すの罪(ニ)人を教唆若くは幫助して自殺せしめ、又は被殺者の囑託を受け、若くは其の承諾を得て之を殺すの罪を含む、尙所定の犯罪原因分類式中には、別表に掲ぐるもの、外、驕奢、射倖、娛樂、無監督を舉ぐと雖も、是等は別表收載年次内に於ては、殺人犯と全く關係なしとして示さるゝを以て、便宜上之を省きたることを注意すべし、又第三十九統計年鑑迄即ち大正七年の計數を掲ぐるもの迄は、身上に基づく區別として、遺傳、習慣、偶發、不詳の別を、年々附載しつゝありしことをも注意すべし、その外特に注意すべきは、別表所載殺人及嬰兒殺、般計數

の時に比較上、比較適性ありとなし得べきや否やの問題なり、蓋し第四十一統計年鑑に至る迄は、統計表の名目中「有罪確定被告人」と題し、爾後の分には確定の二字を省くを以て、右の點につき疑なき能はず、今此疑問を解くため、第四十八刑事統計年報刑事統計要旨七六及七七頁に掲ぐる、「特殊犯罪人の累年比較」を引くこととし、以下同表中大正六年迄は確定裁判、七年以降は第一審裁判の有罪を示すとして掲げし計數(甲)、別表によりて計算せる計數(乙)、第四十三回統計鑑「第一審刑法犯有罪被告人罪名別」表中に掲ぐる計數(丙)を、援萃比照せんか、即ち廣義殺人數は

	甲	乙	丙
大正四年	八七六	八七六	九二二
五年	八八一	八八一	九一二
六年	七四九	七四九	八九四
七年	八一〇	八一〇	八一〇
八年	八一三	八一三	八一三
九年	八一〇	八一〇	八一〇
一〇年	八四二	八四二	八四二

一二年 七六七 七六七 七六七

なり、大正六年に至る迄の甲及乙中の計數に比し、丙中に大なる數字を示すは、前記刑事統計年報中の注意より推して考ふるに、全く後者が確定裁判に依らず、第一審裁判の結果に依れるものなることを、想はずんば非ず。若し夫れ別表所載計數の細目特にその原因分類に對する批判、並に右計數に關する解釋につきては、今一切之を問はず、蓋し本稿の主眼とする所、材料の收録に存すればなり。

別表甲

廣義殺人犯原因別 (男)

原因	大正四年		同五年		同六年		同七年		同八年		同九年		同十年		同十一年	
	狭義殺人	嬰兒殺	狭義殺人	嬰兒殺	狭義殺人	嬰兒殺	狭義殺人	嬰兒殺	狭義殺人	嬰兒殺	狭義殺人	嬰兒殺	狭義殺人	嬰兒殺	狭義殺人	嬰兒殺
憤恨	三二	一	三六	一	二五	一	二六	一	二七	一	二九	一	二八	一	二六	一
復讐	一三	一	一七	一	一八	一	二〇	一	一五	一	一九	一	一八	一	一七	一
出來	三	一	二〇	一	九	一	七	一	六	一	七	一	三	一	三	一
痴情	七	八	四	七	三	八	四	二五	四	六	二	七	一五	一	一五	一
嫉妬	五	一	八	一	五	一	四	一	四	一	三	一	四	一	一	一
遊蕩	八	一	三	一	七	一	四	一	五	一	八	一	二	一	四	一
家内ノ不和	二〇	一	九	一	二	一	七	一	三	一	一〇	一	二	一	三	一
家庭ノ不良	一	一	一	一	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
親族利益上ノ爭	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
貧困	三	一	三	一	一	一	二	一	三	一	一	一	三	一	一	一
利慾	三	一	五	一	二	一	九	一	二	一	一〇	一	三	一	二	一
虛榮	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
誘惑	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
懶惰	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
疎虞	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

雜錄 統計拾穗抄

第二十卷 (第六號一四九) 一〇九一

合計	不詳	其他	不時ノ遭難	刑餘ノ不信用	浮浪	政治上ノ關係	狂疾	疾苦	迷信	惡戯	食慾	酒興	交友不良	友誼	習癖		
六六六	六四	三	二	一	一	二	一	二	一	一	四	五	一	一	一	狹義殺人殺嬰兒	大正四年
六六九	六四〇	二九	八	一		二		二		一	二	二	一	一	一	狹義殺人殺嬰兒	同五年
五五五	五四	三	三			一	一	一			四	二	三	三	三	狹義殺人殺嬰兒	同六年
六二二	五〇	四	一								三	七				狹義殺人殺嬰兒	同七年
六〇五	五三	三	二			一	二	一			一	六	一	一	一	狹義殺人殺嬰兒	同八年
六三五	六八	七	六			四	三	一			一	八				狹義殺人殺嬰兒	同九年
六六六	六三	三	二	四	一	一	一	一	四	五	一	一	一	一	一	狹義殺人殺嬰兒	同十年
六〇二	五四	一八	二	六	九						一	六				狹義殺人殺嬰兒	同十一年

別表乙

廣義殺人犯原因別 (女)

廣義殺人犯原因別	大正四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年
憤	六	一	八	二	八	二	四	一
怨	五	一	八	八	九	五	四	九
復	九	二	二	五	七	三	三	三
出	二	四	二	五	三	七	二	八
痴	五	二	七	九	八	五	八	五
嫉	五	五	二	二	三	四	二	五
遊	六	一	二	一	一	二	二	一
家内ノ不和	一	一	二	一	六	二	一	三
家庭ノ不良	一	一	二	一	二	四	一	一
親族利益上ノ爭	二	三	二	三	一	四	一	一
貧	二	八	八	三	九	三	八	六
利	二	二	四	四	三	二	一	三
虛	一	一	一	一	一	一	一	一
誘	一	一	一	一	一	一	一	一
懶	一	一	一	一	一	一	一	一
疎	一	一	一	一	一	一	一	一
習	一	一	一	一	一	一	一	一
癖	一	一	一	一	一	一	一	一

雜錄 統計拾穗抄

第二十卷 (第六號一五二) 一〇九三

雜錄 統計拾穗抄

第二十卷 (第六號 一五三) 一〇九四

友誼	交友不良	酒興	食慾	惡戯	迷信	疾苦	狂疾	政治上ノ關係	浮浪	刑餘ノ不信用	不時ノ遭難	其他	不詳	合計
狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺	狹義殺 殺
大正四年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
九年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十一年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

備考
イ、第三十八統計年鑑ニハ「4」トシテ示サルモ、年々ノ同種計數及同年ノ狹義殺人數小計トシテ示サルモノニ照シ、假リニ訂正ス。